

必ず入れて欲しいものを吹き出しで示しています。  
A4で1枚にまとめましょう

## 2018年度商学部ゼミナール3報告

日付

報告箇所

報告者

2018/04/19

報告者: 中瀬哲史

報告箇所: 溪内謙(1995), 『現代史を学ぶ』岩波新書「はじめに」「おわりに」

報告者にとって、当該箇所を読んで議論したいと思った点

### 1. 報告箇所の論点

誰が、「学ぶに値する過去」を決めるのか

### 2. 報告箇所の紹介

本報告の理解にとって重要だと考えられるものを列挙する

#### 2.1 キーワード(5つ程度)

現代史, 正当化, 静止画像的な枠組, 歴史的方法, あいまいで不透明な時代

なぜ、論点として取り上げたのかが、明快になるようにまとめること。事細かに内容紹介する必要はない。

#### 2.2 内容紹介

##### ● 「現代史」について

「歴史において」問う歴史家が、「歴史について」考える時代(1-2頁)

現代史…「私たちが生きている『今』をその起源にまでさかのぼって、成り立ちとそれからの

変化とを跡づけることで、これからの行動のための一般的な指針を導き出すこと」(2頁)

≠編年史; 年表にあるように、事項を書き連ねたもの

「人々が関心を寄せる過去とは、現在の認識と未来の洞察とによって意味をもつとみなす過去」(5頁)

→その「過去」とは、誰が決めるのだろうか

##### ● 著者の思い

ソヴィエト・ロシアの歴史研究を持続する「正当化」の根拠の探索へ

著者の考える冷戦期の2つのソ連史(正統主義史観と全体主義的歴史モデル)(7頁)

⇒どちらも、政治権力をも含めた歴史的变化を理論化できない「静止画像的な枠組」

◎分析することなく、最初から「結論」をもった議論

※ソヴィエト・ロシアの歴史研究＝「学ぶに値する過去」

→「現代を歴史的にさかのぼり、そこからの変容の過程を跡づけることによって理解する歴史的方法」(10頁)へ

◎「どこへ」(未来)という疑問が「なぜ」という過去に向けての問いへ

＝眼前の断片化されたあふれる情報を識別し関係づけ系統化して現代を認識する能力

※単なる暗記ではない→「あいまいで不透明な時代」でもある現在の日本を考えるのに適当

##### ● 歴史を学ぶ意義

「ひとを賢明にする」「過去の精神的創造にたいする謙虚な態度をつちかう」

※誰が、「学ぶに値する過去」を決めるのか

最後に、論点を確認